「生態学ニュース」の活用

【はじめに】

私立文系大学あるいは文系学部の学生の場合、高校1年生までしか生物の授業を受けていない者が非常に多い。また、日常的にも、生物飼育や観察をする機会が少なく、生物や生態系への関心が極めて低い。それらに関心のある学生であっても、ごく一部のインパクトの強い事柄に対する興味は強いものの、生態系について幅広い知識や視点を持っているとは言い難い。また、昨今、新聞購読を行わない家庭やニュースをほとんど見ない学生もおり、折々に話題となる科学的な情報に触れる機会が極めて少ない学生も増えている。

一方で、現代社会では様々な環境問題が起こり、自然保護やそれらの問題への取り組みを行う団体や企業も増え、社会においては、文系理系の区別なく、個人個人が生態系や自然環境への正しい知識と広い視点を持たなければならなくなっている。

そこで、生態系への興味・関心を引き出し、生態系を多面的に考察するきっかけを作り出す教材として、生態系や生物に関わるニュースを講義展開の一つとして取り入れる。

【目的】

上記に書かれた学生の現状をふまえ、講義展開の中で「生態学ニュース」を取り入れる目的は以下である。

①生態系を身近に感じ、楽しむ

多くの文系学生が持つ理系科目への苦手意識や“難しい”という先入観を取り除き、身近なものやわかりやすい話題を通して、生態系で起こる現象・影響などを知り、問題意識を持たせる。

②生態系への関心を高める

生物に関わる諸問題への興味や問題意識を持つことによって、生態系全体への関心を高める。

③授業やテキストでの学びを現実と結びつける

生態学の理論や講義およびテキストから学ぶ内容と、今現実には様々な生態系の中で起こっている事を結び付けて論理的に考察できるようにする。

【授業における時間配分】

- ・ 講義時間 90 分のうち、概ね 10～15 分程度
内容の紹介 5～10 分 そのニュースの背景や展望等の解説 5～10 分を目安とする。

ニュースの話題を提示するタイミングは内容に合わせて、

- ①講義開始時   ②講義の中間時   のどちらかに設定するとよい。

【ニュース素材の選択のポイント】

・できる限り、新鮮な話題

世の中で今起きている問題や、最近発見された生物的な話題を取り上げる。

（今、生態系で何が起きているか、何が明らかになったかを知るため）

・身近な生物の話題や面白い内容など興味を引きやすい話題

学生が興味を持ちやすい話題、興味を持たなければいけない話題を多く取り上げる。

（まずは自分のすぐ近くでも、生態系の営みがあることを知り、目を向けるため）

・既知の話題より未知の話題

すでに社会でも話題になっているものばかりではなく、むしろあまり知られていないものを取り上げる。

（生物の活動や生態系の本来の姿が現れている話題を広く知るため）

・国内から地球レベルまで

身近な話題や地域的な内容だけに偏らず、国際的な問題まで幅広く扱う。

（小さな事象にとどまらず、大きな問題に対する自分なりの考え方を持たせるため）

【学生への提示方法】

ニュースと授業内容との関連を持たせる場合

- a. 講義の最初に話題を提供し、その後講義の中でもニュースの話題に繰り返し触れながら、理論を解説する。
- b. その日の講義を進める中で、理論の実例としてニュースの話題を紹介する。

☆ニュースと授業内容の関連の事例

講義	ニュース
同種間相互作用（群れ）	オオカミ 見つめてコミュニケーションを取っている可能性
生物の絶滅と保護	絶滅危機のキタシロサイ死ぬ、残り5頭に
生物進化と生態系	〈謎の恐竜〉背中に帆 モンゴルで全身化石発見
多様性と多様性の高い場所	「サンゴ破壊犯」オニヒトデの駆除に新手法

ニュースと授業内容との関連を持たせない場合

できるだけ理解しやすいものや関心をひきやすい話題を選ぶとよい。

- a. 講義の最初に、学生の意識を講義に向ける「導入」として用いる。
- b. 講義の途中で、話題を変化させる“ブレイク”として用いる。

【授業展開における注意点】

- ・解説はできる限りわかりやすく
  - 専門用語の多様を避け、生物・生態系の知識が少ない学生でも理解できることが重要
- ・長くなりすぎない
  - 解説が長くなるとかえって効果が薄れることもある。

- ・必要に応じて、「以前に紹介したニュース」も授業の中でとりあげる。
反復することで印象に残すとともに、一つの話題が別な内容の講義とも関連していることに気付かせる。